

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

6月

1日

仏滅 氏

旧4月13日

木曜

妙法蓮華経方便品第二

世せ雄おう不ふ可か量りよう

「世雄は量るべからず」

「世雄」とは世の中で一番すぐれたもの、すなわち仏さまのことです。

仏さまがどれほど大きな智慧と慈悲をお持ちになっ  
ているかは、他のものには決して推し量ることはできません。

私たちがいくら上を見上げてみても、はるかか  
なたの高いところまでは見えません。

しかし、仏さまは一番高いところから私たちを  
見下ろし見守ってくださいているのです。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

6月

2日

大安 房

旧4月14日

金曜

妙法蓮華経方便品第二

及ぎゅう仏ぶつ諸しよ余よ法ほう

「及び仏の諸余の法」

「法」には次の三つの意味があります。

①世の中を治めるための法律や規則

②人の人たることを教える道徳や教法

③大自然の摂理や絶対の真理

仏さまの覚った「仏法」は、右の三つの意味をすべて包括し、文字や言葉で表現することも難しく、仏ではない者がいくら推し量っても理解しがたいものなのです。

だからこそ、学び、信じるしかありません。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

6月

3日

赤口 心

旧4月15日

土曜

妙法蓮華経方便品第二

本ほん従じゆう無む数しゆ仏ぶつ

「本無数の仏に随って」

仏さままたは皆、覚りを得るまでに量りしれない時間をかけて数限りない仏さまに仕え、教えを受け、様々な修行を積み、善行を重ねてきたのです。

だからこそ、普通の人間には理解することもできな  
きない深い教えを得ることができたのです。

しかし、量り知れない時間をかけた仏さまの修行も、一瞬一瞬の積み重ねです。今この時を無駄にすることなく修行に励みましょう。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

6月

4日

先勝 尾

旧4月16日

日曜

妙法蓮華経方便品第二

によ ぜ だい か ほう

如是大果報

「是の如き大果報」

「大果報」とは仏に成ること。

「果」と「報」に至るには「因」と「縁」が必要です。「因」は修行のこと、「縁」は教えに出会うこと、「果」は仏のような立派な徳を備えること、「報」は人々を教えに導くこと。

この「因縁果報」がそろった時に仏に成り、「大果報」を得ることができるとのこと。

善い教えに出会った私たち、善い修行を積み、「大果報」を目指しましょう。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

6月

5日

友引 箕

旧4月17日

月曜

妙法蓮華経方便品第二

ごん じ そう じゃく めつ

言辞相寂滅

「言辞の相 寂滅せり」

言葉の表現には限界があり、覚りの最奥は言葉以外の感覚で捉えるしかありません。

だからといって、言葉や文字を軽んじてもいけません。

仏道の入り口では、伝える手段として言葉は必要です。はじめは言葉を聞いて修行を積み理解が深まったら、自分でしっかりと考え、言葉や文字にとらわれない境地を求めていくのです。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

6月

6日

先負斗

旧4月18日

火曜

妙法蓮華経方便品第二

信しん力りき堅けん固ご者しや

「信力堅固なる者」

難信難解の仏さまの教えも、信力堅固な者は理解できるとお釈迦さまは説かれています。

信力堅固な者とは、仏さまの悟りを自分のものとしようと決意し、自分の修行に余力があれば仏さまの手伝いをして、悩める人に手を差し伸べようと努める「菩薩」のことです。

慈悲の心を持ち人々を救い、仏さまの教えを深く信じている人は、仏さまの難信難解の法を理解できるようになりますということです。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

6月

7日

芒種

仏滅 女

旧4月19日

水曜

妙法蓮華経方便品第二

其ご数しゆ如によ竹ちく林りん

「其の数 竹林の如し」

日々の出来事を仏さまの教えに思い合せて、世の無常を覚る「縁覚(辟支仏)」といわれる修行者が、藪に生えている竹のように大勢集まり、億無量劫という非常に長い年月の間、仏さまの智慧を理解しようとしても悟ることはできないということなのです。繁殖力が強く、成長が速い「竹」が群生する姿を「縁覚」に例えているのは、仏法は一朝一夕には身につかないことを示しています。

妙法蓮華經方便品第二

世雄不可量	諸天及世人	一切衆生類	無能知仏者
仏力無所畏	解脫諸三昧	及仏諸余法	無能測量者
本從無数仏	具足行諸道	甚深微妙法	難見難可了
於無量億劫	行此諸道已	道場得成果	我已悉知見
如是大果報	種種性相義	我及十方仏	乃能知是事
是法不可示	言辞相寂滅	諸余衆生類	無有能得解
除諸菩薩衆	信力堅固者	諸仏弟子衆	曾供養諸仏
一切漏已尽	住是最後身	如是諸人等	其力所不堪
仮使満世間	皆如舍利弗	尽思共度量	不能測仏智
正使満十方	皆如舍利弗	及余諸弟子	亦満十方刹
尽思共度量	亦復不能知	辟支仏利智	無漏最後身
亦満十方界	其数如竹林	斯等共一心	於億無量劫

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

6月

8日

大安 虚

旧4月20日

木曜

妙法蓮華経方便品第二

しん

ぼつ

ち

ぼ

さつ

## 新発意菩薩

「新たに菩薩行をする決心をした者」

「新発意菩薩」とは、新たに菩薩の行を実行しようとして決意した者。

新発意菩薩が数限りない仏さまに仕え、理解したことを他者のために説き、その新発意菩薩が、稲麻竹葦(とうまちくい)の如く世界に充満したとしても、仏さまの智慧を知ることにはできないと説かれています。

稲麻竹葦は、多くの人や物が入り乱れるように群がっているさまをのことです。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

6月

9

日

赤口 危

旧4月21日

金曜

妙法蓮華経方便品第二

不退諸菩薩

ふ たい しよ ぼ さつ

「不退の諸菩薩」

仏さまの智慧を求め不退転の心で修行を続けている菩薩たちがガンジス川の砂の数ほども集まって、一心に考えても、仏の智慧には至らないと説かれています。

知りたいと思うだけでも、自分の知識だけで覚ろうとしても、仏の智慧は得られない。

知るための努力と、信じるという気持ちとが融合して一つになった人だけが、仏さまの境地がわかるということです。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

6月

10日

先勝 危

旧4月22日

土曜

妙法蓮華経方便品第二

諸しよ仏ぶつ語ご無む異い

「諸仏の語 異なること無し」

お釈迦さまと、大日如来や阿弥陀如来が発するお言葉は違っても、その中に含まれた意味に違いは無いと説かれています。

もっと良い教えがあるのではないかと仏さまのお言葉を疑うと、信心が揺らぎます。

本物の悟りに至る真実の道は一つです。

私たちを救おうと説かれているお言葉を信じ、心を打ち込んで、その教えを受持するようにならなければなりません。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

6月

11日

友引 壁

旧4月23日

日曜

妙法蓮華経方便品第二

せ そんな ほうく ご よう とう せつ しん じつ

世尊法久後 要当説真實

「仏は久しく法を説いた後に、必ず真實を説く」

仏さまは世の中に出でて、聞く人の能力に合  
わせて久しく方便の教えを説かれます。

しかし、その後必ず真實の教えを、仏さまが  
お悟りになったそのままに説かれます。

ですから、仏さまを信じ、その教えを一心に  
聴き、能く味わえば必ず久しい後に真實の教  
えが説かれていることがわかるはずです。

「久しい後」がどれほどの時間か、私たちの  
信心次第ということでしょう。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

6月

12日

先負 奎

旧4月24日

月曜

妙法蓮華経方便品第二

ぶつ ち ほう べん りき じ い さん じょうきよう  
仏以方便力 示以三乗教

「仏さまは方便を用いて、三乗に教えを示す」

声聞・縁覚・菩薩の三乗は、自らの苦しみから脱することに執着し、それぞれの段階で体得したところに執着し、次の段階に進むことができなくなっています。

相手がどこに留まっているのかを無視して、目的地を示してもかえって迷うだけです。

そこで仏さまは三乗のそれぞれが理解しやすい方便の教えを用いて一段階ずつ導き、やがて仏に成れるように道を示されたのです。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

6月

13日

仏滅 婁

旧4月25日

火曜

妙法蓮華経方便品第二

が とう やく とく し ほう とう お ね ほん

我等亦得此法 到於涅槃

「我等この法を得て、涅槃に到れり」

声聞たちは、世の中の無常を感じ世間に執着しない心持ちを作れという仏さまの教えに従い修行を重ね涅槃を得たと思っていました。

しかし方便品でお釈迦さまは、執着しない心を作るだけでは、仏の智慧を理解することができないと説かれました。

人々を救うために、まず執着を捨てることが必要ですが、執着を捨てることだけに満足してしまおうと先に進めないと示したのです。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

6月

14日

大安 胃

旧4月26日

水曜

妙法蓮華経方便品第二

おん こん しょう たん  
慇懃称歎

「慇懃に難信難解の法を称歎したもう」

舍利弗は聴衆が疑問を抱いていることを知り、繰り返し丁寧に難信難解の教えを賞嘆される理由をお釈迦さまに尋ねます。

お釈迦さまの弟子として長く仕えてきて智慧第一といわれる舍利弗にも、今回のように今までの教えを差し置いて、難信難解の法を称える理由がわかりませんでした。

お釈迦さまは、疑問を抱くことで皆が一步先に踏み出せると考えられたのでしよう。

# 妙法蓮華經方便品第二

新發意菩薩

供養無數仏

了達諸義趣

又能善說法

如稻麻竹葦

充滿十方刹

一心以妙智

於恒河沙劫

咸皆共思量

不能知仏智

不退諸菩薩

其數如恒沙

一心共思求

亦復不能知

又告舍利弗

無漏不思議

甚深微妙法

我今已具得

唯我知是相

十方仏亦然

舍利弗當知

諸仏語無異

於仏所說法

當生大信力

世尊法久後

要當說真實

告諸声聞衆

及求縁覺乘

我令脱苦縛

速得涅槃者

仏以方便力

示以三乘教

衆生处处著

引之令得出

爾時大衆中。有諸声聞。漏尽阿羅漢。阿若隱陳如等。千二百人。及發声聞。辟支

仏心。比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷。各作是念。今者世尊。何故慇懃。称歎方

便。而作是言。仏所得法。甚深難解。有所言說。意趣難知。一切声聞。辟支仏。

所不能及。仏說一解脱義。我等亦得此法。到於涅槃。而今不知。是義所趣。爾時

舍利弗。知四衆心疑。自亦未了。而白仏言。世尊。何因何縁。慇懃称歎。諸仏第

一方便。甚深微妙。難解之法。我自昔來。未曾從仏。聞如是說。今者四衆。咸皆

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

6月

15日

赤口 昴

旧4月27日

木曜

妙法蓮華経方便品第二

ぶつ く しよ しょう し  
仏口所生子

「仏さまの口から出た教えによって生まれ変わる」

仏さまを信じていると、仏さまのお力が私たちの心に働いて、私たちの心は前の心持ちと違ったものになり、前にはできなかったことができるようになってきます。

自分の心を作り直すことが本当の信心であり、仏さまの口から出た教えによって生まれ変わるといえるのです。

そしてさらに深い教えをいただくために、私たちは合掌して仏さまを仰ぎ見るのです。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

6月

16日

先勝 畢

旧4月28日

金曜

妙法蓮華経方便品第二

合掌がっしょうい以敬心きょうしん 欲聞よくもん具足道ぐそくどう

「合掌し敬いの心で、具足の道を聞こうと欲す」

舍利弗が懇願してもお釈迦さまは難信難解の法をお説きになりません。

聴衆は皆合掌して、この上ない完全無欠の教えを伺いたいと心の底からお願っています。

すでに悟りを得たと思いい込んでいる者たちを突き放すことによって、目覚めさせようというお釈迦さまのお考えです。

しかし、お釈迦さまは舍利弗が一度お願いしただけではまだ許されませんでした。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

6月

17

日

友引 鶯

旧4月29日

土曜

妙法蓮華経方便品第二

ぞう けん しよ ぶつ  
曾見諸仏

「かつて諸仏にまみえ」

舍利弗の懇願に対し、お釈迦さまは難信難解の教えを説いたなら、皆驚いて修行をする勇氣を失ってしまおうと拒否されます。

しかし舍利弗は、聴衆には前世から仏の教えを聴いた深い縁のある者もあり、難しい教えも理解できるでしょうと再度懇願しました。

何度も生まれ変わり、仏さまに出会い、教えを聞いた者でも、真実の教えに出会うのは難しいことを示しています。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

6月

18日

大安 参

旧5月1日

日曜

妙法蓮華経方便品第二

ぞうじょう まんびく しょうだ お だいきょう

増上慢比丘 将墮於大坑

「増上慢の比丘はまさに地獄に落ちるだろう」

お釈迦さまは、もし難信難解の法を説いたら、すでに悟りを得たと思ひ込んでいる増上慢の比丘たちは、「大坑」という地獄に墮ちることになるだろうと危惧されます。

仏の尊い教えを疑う罪を負わせて地獄に墮ちることになるのなら、聞かせないほうがよいというのです。

しかしこの悪縁もまた、遠回りでも未来の仏に成る道になっていくのです。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

6月

19日

赤口 井

旧5月2日

月曜

妙法蓮華経方便品第二

さん し さん  
三止三請

「三度請い願ひ、三度断る」

舍利弗の三回目の懇願の後、お釈迦さまは舍利弗の心が教えを受け入れる段階に達したものと判断して、お悟りの内容を説くとお告げになりました。

そして、大事な教えであるから心して聴くように、聴いた後に繰り返して自分で考えるようにと念を押されました。

それだけ重要な教えであることを示し、真剣に聴くための心構えを確認する場面です。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

6月

20日

先勝 鬼

旧5月3日

火曜

妙法蓮華経方便品第二

五千起去

「五千人の退席」

三度にわたる舍利弗の懇願を受け入れて、お釈迦さまが教えを説こうとされたとき、悟ったと思ひ込んでいる増上慢の比丘たち五千人が立ち上がり、礼拝して出て行きました。これまでの修行で得たことに満足し、それ以上の教えを求めようとしない人たちです。ある程度の段階に達した後、さらにその上を目指すには、相当の覚悟と後押ししてくれる境遇がなければ難しいことです。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

6月

21日

友引 柳

旧5月4日

水曜

妙法蓮華経方便品第二

せ せん もく ねん

に ふ せい し

世尊默然 而不制止

「世尊默然として、制止したまわず」

お釈迦さまは、五千人の増上慢比丘が退席しても引き止めもせず黙って見送りました。

聞こうとしない者には、無理やり説いて聞かせるより、一度放置し苦勞させて、悩み考えて自ら求めてきたときに説き聴かせたほうが、身に染みて理解できるといふことです。

見捨てたのではなく、自ら求めてくるまで、どれだけ長い時間がかかっても待つという深い慈悲の表れです。

## 妙法蓮華經方便品第二

仏口所生子

合掌瞻仰待

願出微妙音

時為如實說

諸天龍神等

其數如恒沙

求仏諸菩薩

大數有八萬

又諸万億國

轉輪聖王至

合掌以敬心

欲聞具足道

爾時仏告。舍利弗。止。止。不須復說。若說是事。一切世間。諸天及人。皆當驚疑。

舍利弗。重白仏言。世尊。唯願說之。唯願說之。所以者何。是會無數。百千万億阿僧祇衆生。

曾見諸仏。諸根猛利。智慧明了。聞仏所說。則能敬信。爾時舍利弗。欲重宣此義。而說偈言

法王無上尊 唯說願勿慮 是會無量衆 有能敬信者

仏復止舍利弗。若說是事。一切世間。天人阿修羅。皆當驚疑。 増上慢比丘。將墜於大坑。

(中略)

爾時世尊。告舍利弗。汝已慙懃三請。豈得不說。汝今諦聽。善思念之。吾當為汝。分別解說。

說此語時。会中有比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷。 五千人等。即從座起。礼仏而退。

所以者何。此輩罪根深重。及増上慢。未得謂得。未証謂証。有如此失。是以不住。

世尊默然。而不制止。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

6月

22日

夏至

先負 星

旧5月5日

木曜

妙法蓮華経方便品第二

う どん ばっ け

## 優曇鉢華

「優曇鉢華が咲くように稀有なこと」

「優曇華」ともいい、球状をしたいちじく科の樹、またはその花、果実を指します。

この花は三千年に一度だけ咲くといい、仏さまがこの世にあらわれるとき、あるいは転輪聖王が出現するときには咲くといわれます。

この木は花なくして実を結ぶともいわれ、稀有なこと、あいがたいことをたとえるのに使われ、「妙法に遭い難い」ことのたとえにも用いられます。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

6月

23日

仏滅 張

旧5月6日

金曜

妙法蓮華経方便品第二

ぜ ほう ひ し りょう ふん べつ

是法非思量分別

「この法は思量分別で理解することはできない」

「思量分別」とは頭で考えて分類すること。

人間の知識によって思慮分別できるのは、先ず感覚的に受け止め、次に判断を下し、その経験を重ねて推量することまでです。

五感で感知できない人知を超えた存在である仏さまの智慧については「何かがある」と信じることから入っていくしかありません。

いつか自分も仏と成り、その智慧が身に付くと信じて進むしかないのです。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

6月

24日

大安 翼

旧5月7日

土曜

妙法蓮華経方便品第二

いち

だい

じ

いん

ねん

## 一大事因縁

「一大事因縁をもって仏は出現した」

「一大事因縁」とは人間にとって何より大事なこと。それを教えようと仏さまはこの世に出現されました。

人生のあらゆることはいかなる意味を持つのか、人間はいかにして生きるのか、それを心の底までわかるように、徹底的に説かれたのが仏さまの教えです。

そう心がけて読むと、経文が私たちの人生に語りかけていることに気づきます。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

6月

25日

赤口 軫

旧5月8日

日曜

妙法蓮華経方便品第二

ぶつ  
ち  
けん  
仏知見

「仏さまが見極めたお考え」

「仏知見」とは仏さまが見極めたお考え。

それは普通の人間にはわからないことなので、仏さまと同じ心持ちにさせようとこの世に出現されたのです。

惑うのは自分を中心に考えるからで、覚るためには自分を捨てて考えることが必要です。

人は一人では生きていけません。

小さな自分にとらわれている心を捨てることが「仏知見」に近づく道なのです。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

6月

26日

先勝 角

旧5月9日

月曜

妙法蓮華経方便品第二

開示悟入

かい じ ご にゆう

「仏さまがこの世にお出ましになる目的」

「開」は仏の智慧の蔵の扉を開けて、私たちも同じ智慧を得られると気づかせること。

「示」は智慧の蔵の中身を示すこと。

「悟」は仏の智慧を悟ること。

「入」は悟りの世界に入ること。

「開示悟入」は、人々を等しく仏道に導き、イキイキと生きられるようにしようという、仏さまがこの世にお出ましになる目的です。仏さまはいつも扉を開けて待っています。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

6月

27

日

友引 亢

旧5月10日

火曜

妙法蓮華経方便品第二

但たん教化きよう菩薩け  
ぼ菩薩さつ

「ただ菩薩を教化するために」

お釈迦さまは舍利弗に向かつて、「ただ菩薩を教化するため」この世にお出ましになつたと説かれました。

菩薩の道を進む者のみが仏の弟子であるといわれ、世間への執着を捨てる修行を積んできた声聞や縁覚たちは驚きます。

自分一人が救われるのではなく、他の人々と共に悟りへの道を歩もうとする者だけが、お釈迦さまが教化する弟子なのです。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

6月

28日

先負 翼

旧5月11日

水曜

妙法蓮華経方便品第二

む う よ じよう にやくに にやくさん

無有余乘 若二若三

「唯一乗の法のみあり、二もなくまた三もなし」

「二」とは声聞・縁覚の二乗、「三」とは二乗に菩薩を加えた三乗のこと。

お釈迦さまが今まで方便として説いた多くの教えは、真実の教え「一仏乗」に起因するものなので、二乗も三乗もないということなのです。

仏さまのものの見方「仏知見」に導く乗り物が「一仏乗」法華経です。

一仏乗に乗って、世のため人のために尽くし真の仏弟子となりました。

妙法蓮華經方便品第二

仏告舍利弗。如是妙法。諸仏如来。時乃説之。如優曇鉢華。時一現耳。舍利弗。汝等當信。仏之所説。言不虛妄。舍利弗。諸仏隨宜説法。意趣難解。所以者何。我以無數方便。種種因縁。譬諭言詞。演説諸法。是法非思量分別。之所能解。唯有諸仏。乃能知之。所以者何。諸仏世尊。唯以一大事因縁故。出現於世。舍利弗。云何名諸仏世尊。唯以一大事因縁故。出現於世。諸仏世尊。欲令衆生。開仏知見。使得清淨故。出現於世。欲示衆生。仏知見故。出現於世。欲令衆生。悟仏知見故。出現於世。欲令衆生。入仏知見道故。出現於世。舍利弗。是為諸仏。唯以一大事因縁故。出現於世。仏告舍利弗。諸仏如来。但教化菩薩。諸有所作。常為一事。唯以仏之知見。示悟衆生。舍利弗。如来。但以一仏乘故。為衆生説法。無有余乘。若二。若三。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

6月

29日

仏滅 房

旧5月12日

木曜

妙法蓮華経方便品第二

五ご仏ぶつ章しょう

「五仏は皆同じ目的・同じ方法で教えを説く」

「五仏」とは十方の諸仏・過去仏・未来仏・現在仏・釈迦仏のことで、「章」とは全体をいくつかに分けた段落のこと。

過去・未来・現在のあらゆる時代の仏さまも、十方のあらゆる世界の仏さまも、そしてお釈迦さまも、みな同じ目的と方法で教えを説かれたということを表しています。

「仏知見」に導く目的のために、方便を用いてきたことを順序立てて示されたのです。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

6月

30日

大安 心

旧5月13日

金曜

妙法蓮華経序品第一

ご じよく あく せ

## 五濁悪世

「悪世における五種の濁乱」

「五濁」とは悪世における五種の濁乱のこと。

①劫濁：時代の濁り。戦争や疫病や飢餓などが多くなり時代が濁り、世が乱れること。

②煩惱濁：貪・瞋・癡・慢・疑の五鈍使をいう。煩惱におかされた人間たちの姿。

③衆生濁：人々の心身とも鈍く弱くなり、苦しみの多くなる社会全体の濁り。

④見濁：思想が濁り邪な考えが広がること。

⑤命濁：人々の寿命が短くなること。

## 妙法蓮華經方便品第二

舍利弗。一切十方諸仏。法亦如是。舍利弗。過去諸仏。以無量無數方便。種種因縁。譬諭言辭。而為衆生。演説諸法。是法皆為。一仏乗故。是諸衆生。從諸仏聞法。究竟皆得。一切種智。舍利弗。未來諸仏。當出於世。亦以無量。無數方便。種種因縁。譬諭言辭。而為衆生。演説諸法。是法皆為。一仏乗故。是諸衆生。從仏聞法。究竟皆得。一切種智。舍利弗。現在十方。無量百千萬億。仏土中。諸仏世尊。多所饒益。安樂衆生。是諸仏。亦以無量。無數方便。種種因縁。譬諭言辭。而為衆生。演説諸法。是法皆為。一仏乗故。是諸衆生。從仏聞法。究竟皆得。一切種智。舍利弗。但教化菩薩。欲以仏之知見。示衆生故。欲以仏之知見。悟衆生故。欲令衆生。入仏知見道故。舍利弗。我今亦復如是。知諸衆生。有種種欲。深心所著。隨其本性。以種種因縁。譬諭言辭。方便力故。而為説法。舍利弗。如此皆為。得一仏乗。一切種智故。舍利弗。十方世界中。尚無二乗。何況有三。舍利弗。諸仏出於。五濁惡世。所謂劫濁。煩惱濁。衆生濁。見濁。命濁。如是。舍利弗。劫濁乱時。衆生垢重。慳貪嫉妬。成就諸不善根故。諸仏以方便力。於一仏乗。分別説三。舍利弗。若我弟子。自謂阿羅漢。辟支仏者。不聞不知。諸仏如來。但教化菩薩事。此非仏弟子。非阿羅漢。非辟支仏。又舍利弗。是諸